スポットライト SPOT LIGHT

「Think globally, act locally」を秩父の大自然から

おかのうえ助産院　宮原　まり（熊谷地区）



私は秩父市の自宅の一室で産前産後ケアの助産院を開業している。ペットのヤギを放牧できるほどの大自然に囲まれた場所だ。都内の病院勤務、青年海外協力隊を経て、結婚を機にこの地へ赴いた。「Think globally, act locally」をモットーに、いただいたお仕事は基本的にすべて引き受けるため、毎日とにかく忙しい。助産院のほか、週２回は市内唯一の産婦人科での母乳外来、看護学校の講師や自治体の講座、性教育、そして2013年からは桶谷式母乳育児推進協会のバングラデシュ・プロジェクトにも携わっている。海外支援をしたくて助産師になった私にとって、地域と海外の双方で活動できる今の環境は最高に幸せだ。

様々な活動の中でも、人権、科学的根拠、多様性を大切にする「包括的性教育」からの学びは大きく、私の軸となっている。これらは母乳育児支援でも海外支援でも、常に大切にしたい視点だ。

SNSでは、しばしば「人工栄養vs母乳栄養」の論争が繰り広げられている。時に唸り、自身の過去を振り返って胸を痛めることもあるが、論争をしている場合ではない。私たちにできるのは、その方を理解した上で根拠ある支援をし、安心を届けることだ。

子育てや出産が難しいと言われる日本。政情や衛生環境は不安定だが、子どもたちがたくましく育つバングラデシュ。どんな場所でも毎日新しい命が生まれ、母になる人がいる。世界中の母子の関わりに少しでも貢献できるよう、今日も目の前のことに感謝しながら向き合っていきたい。

お知らせ

【 新会員の募集 】

助産師会の会員を随時募集しています。

ホームページをご覧ください。

https://mw-saitama.com/



TEL :048-799-3614
E-mail:mw-saitama@royal.ocn.ne.jp
一般社団法人　埼玉県助産師会　事務局



新生児から使える肌育スキンケア

ママ&キッズのベビースキンケアはママの胎内環境を再現した成分で、大切な赤ちゃんの肌を育み、刺激から守ります。

肌育研究® 30年

無香料　無着色　低刺激　弱酸性

パラベン・アルコール(エタノール)・石油系界面活性剤・鉱物油無添加

●新生児・乳幼児連用テスト済※1 ●アトピー素因を有する方のご協力によるパッチテスト済※1
●皮膚アレルギーテスト(RIPT)済※2 ●食物アレルギー(25品目)テスト済※2 ●眼刺激性テスト済※1
※1 すべての方に合うというわけではありません ※2 すべての方にアレルギーが起こらないというわけではありません

患者様向けサンプル 無償にてご提供
院内使用製品 特別価格でのご納入
お問い合わせは右記まで　株式会社ナチュラルサイエンス 営業部 医療営業担当
ご連絡をお願いいたします。TEL:03-5665-3866 FAX:03-5665-2322

natural science 株式会社 ナチュラルサイエンス　〒136-0073 東京都江東区北砂 3-4-27　www.natural-s.jp/

埼玉県助産師会会報
No.59
発行：一般社団法人 埼玉県助産師会
編集:広報委員会　発行人:平野素尚　印刷:株式会社 ジョイン・システム
事務局:金子千春・三田江利　〒336-0017 さいたま市南区南浦和2-38-7 富士見ビル602号室
TEL:048-799-3614 FAX:048-799-3130 E-mail:mw-saitama@royal.ocn.ne.jp

一般社団法人

埼玉県助産師会会報

No. 59
2026. 9. 17
発行

～ 埼玉県助産師会の理念　～

**すべての生命を大切にし、
社会から信頼されるケアを行います**



「おめでとう100日」
写真提供:金子　千春 さん（川口地区）

CONTENTS

page
2 会長挨拶
3 令和８年度役員紹介　／　埼玉県助産師会通常総会報告
4 助産所部会担当理事挨拶　／　保健指導部会担当理事挨拶
5 勤務助産師部会担当理事挨拶
研修会報告「プレコンセプションケアに関する研究会」
6 7 特集「プレコンセプションケアの取り組み
～実践から見える課題～」
8 スポットライト「『Think globally, act locally』を
秩父の大自然から」

会員数 352名 (2026.9.1 現在)	
助産所部会	45名
保健指導部会	144名
勤務助産師部会	159名
名誉会員	1名
特別会員	3名



会　長　挨　拶



ごあいさつ

会長　平野素尚

会員の皆様には、日頃より埼玉県助産師会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

先日、熊本県で発生した地震により被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。お亡くなりになられた方々に深い哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様に謹んでお悔やみを申し上げます。

去る５月９日に開催された総会には、昨年を上回る多くの皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。今年度は６名の新理事を迎え、事務局を2名とした新体制でスタートを切ることができました。

令和８年度は、「活動拠点検討委員会」の立ち上げや他職種との連携など、当会がさらに発展するための重要な取り組みを推進する年となります。本誌（広報59号）がお手元に届く頃には、検討委員会のメンバーも決定している予定です。埼玉県助産師会の未来を見据え、新事務所の移転も含めた具体的な検討を進めてまいります。総会では先輩方から当会への熱い思いがこもったご意見をいただき、身の引き締まる思いをいたしました。理事一同、会の発展に向けて尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

また、７月下旬にはホームページを無事にリニューアルいたしました。今後は地区活動をはじめとする当会の取り組みを積極的に発信し、県民の皆様にとって助産師をより身近に感じていただける場にしたいと考えております。皆様とともに、温かく充実したWebサイトへ育てていければ幸いです。

さて、３月20日に開催された勤務助産師部会主催の「助産師交流会」では、養成校の教員や現場で働く助産師が一堂に会し、日頃抱える葛藤や課題について貴重な意見交換を行うことができました。医療が日々進歩するなかで、助産師のあり方も多様化しています。「助産師は何をする人ぞ」という先輩方の言葉を胸に、いのちの誕生に立ち会い、女性の一生とその家族・地域に寄り添う専門職として、時代に即しながらも変わらない大切な役割を考え続ける会でありたいと思っております。

現在、こども家庭庁が掲げている「プレコンセプションケア推進5か年計画」には、本会が埼玉県から委託を受けている２つの事業（「プレコンセプションケア相談センター『ぷれたま』」「プレコンセプションケア普及啓発事業」）も深く関わっております。同計画では、2030年までに「プレコンサポーター」を５万人以上養成するという目標が掲げられています。まずは会員の皆様に「アドバンスプレコンサポーター」を取得していただくことで、現場の声を施策や支援へより強く反映させていきたいと考えております。ぜひご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



令和8年度 役員紹介

役　員

役職名	氏　名	所属部会	所属地区
会　長	平野素尚	助産所	さいたま市
副会長	山田美津枝	助産所	さいたま市
副会長	鵜野州みどり	助産所	川　口
総務理事・事務局	金子千春	助産所	川　口
総務理事	三田江利	保健指導	川　越
総務理事	上林小百合	助産所	さいたま市
総務理事	猿谷　薫	勤務助産師	越　谷
財務理事	大山　梢	勤務助産師	幸　手
財務理事	草間靖江	勤務助産師	越　谷
財務理事	宮下かおり	保健指導	さいたま市
助産所部会理事	天満屋敷千幸	助産所	春日部･蓮田
保健指導部会理事	岡野啓子	保健指導	川　越
勤務助産師部会理事	清水　操	勤務助産師	熊　谷
監　事	中島桂子	助産所	越　谷
監　事	牧岡晴美	助産所	越　谷



委　員　会

委員会名	委員長名	所属部会	所属地区
安全対策	大橋恵美	助産所	熊　谷
教　育	伊藤朋子	保健指導	鴻巣･上尾
福　祉	池田幸枝	保健指導	鴻巣･上尾
広　報	戸谷知子	保健指導	さいたま市
選挙管理	高橋美絵	保健指導	朝　霞
災害対策	小平明日香	勤務助産師	さいたま市
渉　外	金子千春	助産所	川　口

令和８年度 一般社団法人埼玉県助産師会 通常総会報告

５月９日、With Youさいたまセミナー室にて「令和８年度一般社団法人埼玉県助産師会通常総会」が開催されました。（会員数346名・会場出席71名・委任状192名・出席者計263名）

総会では、令和７年度事業報告および決算報告、令和８年度事業計画および予算案などについて審議が行われ、各議案は過半数の賛成をもって承認されました。

事業報告では、各部会・委員会の活動内容や１年間の取り組みが報告されるとともに、今後の事業展開についても説明がありました。また、会員からはプレコンセプションケアに関する意見や、助産師会の歴史、先輩方が築いてこられた歩み、その意義についてのお話があり、改めて助産師会の役割やこれからの活動について考える機会となりました。

総会終了後は、久しぶりに顔を合わせた会員同士が近況報告や情報交換を行う姿が多く見られ、対面開催ならではの交流を深める有意義な時間となりました。今後も会員相互のつながりを大切にしながら、埼玉県助産師会の活動をさらに発展させていくことが期待されます。

広報委員　藤川　あさみ　（熊谷地区）

部　会　報　告



助産所部会担当理事挨拶

助産所部会担当理事　　天満屋敷　千幸

会員の皆様には日頃より会員活動にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

少子化、出産施設の減少、さらには助産所での分娩数は減少の一途をたどり、昨今、周産期を取り巻く環境は大きく変化しています。その様な中でも、妊娠・出産にとどまらず、将来を見据えた健康づくりを支援する「プレコンセプションケア」の重要性が広く認識されるようになってきました。女性のライフステージ全体に寄り添う存在として、私たち助産師が担う役割はこれまで以上に拡大してきたと感じています。一人一人に寄り添い、その人らしい選択を支援することは私たち助産師の得意とする分野ではないでしょうか。

一方で、助産所の運営、後継者やマンパワーの不足など課題も多く、これまで私たちは知恵を絞り経験を分かち合い、乗り越えてきました。運営困難な産後ケア事業や新たなシステムとなる分娩費用の無償化など、これからも変化の時代を越えて、助産所が未来へ繋がるように互いに支え合っていきたいと思っております。

助産所部会担当理事を拝命し、四年目を迎えました。今年度も皆様のお力を借りながら、助産所・助産師の魅力や価値を発信し、会員同士が学び合い、繋がりを大切にして助産師会ならびに助産所部会の運営に務めてまいります。

～母と子の幸せと、私たち助産師の笑顔のために～



保健指導部会担当理事挨拶

保健指導部会担当理事　　岡野　啓子

今年度、保健指導部会担当理事を務めさせていただくことになりました。長く保健指導部会に所属してきましたが、わからないことも多く、地区代表者や会員の皆様に支えていただきながら活動しております。今後も皆様のご協力をいただきながら、会員にとって意義のある部会運営をしていきたいと思っています。

近年出産数の減少に伴い、助産師の活動の場は医療機関から地域へと広がり、多くの会員が新生児訪問や養育支援訪問、産後ケア事業などに携わっています。産後ケア事業は市町村によって内容が異なり、授乳や育児相談だけでなく、保護者の休息を目的とした児の預かりなどを求められる場面もあります。また、母児が急変した際の相談医療機関との連携や対応についても、助産師に任されている自治体が少なくありません。

私たちが目指すのは、目の前のお母さんや赤ちゃん、そしてご家族に、本当に必要な支援を安全に届けることです。そのためには、現場の助産師だけに判断を委ねるのではなく、市町村とも課題を共有しながら、安心して産後ケアを提供できる体制を一緒に整えていくことが大切だと考えています。今年度も皆様とともに取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。





勤務助産師部会担当理事挨拶

勤務助産師部会担当理事　　清水　操

勤務助産師部会の担当理事として、三期目を迎えました。これまで多くの皆様に支えていただき、心より感謝申し上げます。今後はこれまで以上に部会活動を充実させ、皆様に「所属していてよかった」と思っていただける取り組みを形にしていきたいと考えております。

勤務助産師部会は、病産院のみならず、教育機関、市町村など多様な現場で働く助産師が集う部会です。立場や役割が異なるからこそ、互いの経験や知恵を共有することに大きな価値があります。これまで十分に交流の機会を設けられず、もどかしさを感じる場面もありましたが、昨年度開催した交流会では、助産師のこれからについて語り合うことができました。

また９月には、対面での研修会を企画し、画面越しでは得られない空気感の中で、皆様の学びやつながりが少しでも深まる場になればとの思いです。

ブラッシュアップセミナーなど、場所を問わず参加できる企画も活かしながら、勤務助産師部会ならではの学びと交流を深めていきたいと考えております。皆様の声を伺いながら、次世代の助産師との連携や組織活動の強化にも力を注いでまいります。

多様な現場で働く皆様が、同じ部会に所属するメリットを実感できるよう、温かい絆を育む場を丁寧に準備してまいります。どうぞ今年度も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

研修会報告

月　日

「令和８年度 プレコンセプションケアに関する研究会」報告



埼玉県から委託を受けた本研究会は、養護教諭、教員、助産師、看護師、行政など県内の思春期教育に携わる多職種がプレコンセプションケアについて共に学び考えることを目的に開催しています。

今年度は８月６日埼玉県地域医療教育センターにて、「おうち性教育はじめます」シリーズのご著者でもあり、日本の性教育界の第一人者である村瀬幸浩先生をお招きし、「女性の性も肯定する性教育とは？～思春期世代に関わる大人が知っておきたい性のポジティブな理解～」を実施しました。科学的知見や国内外の歴史的背景を踏まえながら、性の主体性と自己肯定感、対等なコミュニケーション、ポジティブな性とはなにかを深く考えていきました。「大人がまず学び、本気で伝える関係性を作ろう」という熱いメッセージが参加者70名の心に響き、自身の関係性を振り返り、今後の性教育実践や思春期世代と関わる際にどう活かしていくか向き合いながらあっという間に時間が経過しました。

後半は３～４人程度のグループワークを行い、講演で学んだことや自身の普段の取り組みなど交えてアウトプットしながら交流と学びをさらに深めました。講演を聴講するだけでなく意見交換したことで新しい発見や学びがあったとの意見もあり、多職種連携の効果も発揮されたのではないかと思います。

受講後アンケートで「本日の内容は今後に活かせるものでしたか」に『はい』と回答した方が90％と、参加者の満足度からも非常に実りある研修となりました。

プレコンセプションケア普及啓発事業　運営メンバー　山下　章子

特集

プレコンセプションケアの取り組み ～実践から見える課題～



少子化が進む中、若い世代の健康づくりや妊娠・出産を含めた将来のライフプランを考える「プレコンセプションケア」の重要性が高まっています。
本特集では、その取り組みと実践から見えてきた課題をご紹介します。

① NPO法人 にじいろおくるみ　藤田　佳代子（東部ブロック）


NPO法人にじいろおくるみ
代表藤田・副代表華間です

NPO法人 にじいろおくるみは、女性やこどもが安心して相談できる居場所づくりを目的に2025年に設立し、今年５月から越谷市内の戸建住宅で「居所不安定妊婦の居場所事業」を開始しました。支援対象の多くは妊娠前から複雑なPsycho・Socialな課題を抱え、その背景に「誰も信頼できない」という深い孤立があります。

プレコンセプションケアは本来妊娠前ですが、この支援は妊娠後で、ほとんどは望まなかった妊娠です。「望まない妊娠をしない」ことは最重要ですが、妊娠という現実は、否定的な自己認識を抱える若者が支援につながる数少ない契機でもあり、主体性を取り戻す入り口にもなります。プレコンセプションケアは、自己への信頼と他者への信頼を少しずつ育む過程であり、私たちはその視点を支援の基盤として大切にしたいと考えています。

私たちの活動は、“赤ちゃんポストのその前”の役割として、居所不安定な妊婦を受け入れ、家庭的な環境の中で生活支援と多職種連携によるソーシャルワークを行いながら、Bio・Psycho・Socialな観点で支援し、次の安全な居場所へつなぎます。

現在、妊婦の居場所は極めて限定的なこと、そしてこの活動が自分たちで獲得した助成金で運営している不安定さは大きな課題です。妊娠期だけでなく、その前後を通じて伴走できる支援体制を地域に根づかせ、若い世代が主体的に未来を選び取れる社会づくりに寄与していきたいと考えています。

② さくらい助産院　櫻井　裕子（西部ブロック）



私は2018年から３年半にわたり、(公社)日本助産師会の特別委員会委員長として、プレコンセプションケアに関する教材開発と、それを用いた実証研究に取り組みました。当時、プレコンセプションケアは一般にはまだ十分に知られておらず、私自身も学びと実践を重ねながら、助産師が行うプレコンセプションケアには、企業や行政が想定するものとは異なる、重要な意義があるとの認識を強めていきました。

その後、プレコンセプションケアは成育医療基本法に位置づけられ、国を挙げて推進されることになりました。しかし各所で批判が相次ぎ、思わぬ形で炎上する事態も生じています。

批判の理由の一つとして、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）が基盤に置かれず、「妊娠・出産・育児」を強要するかのように受け取られてしまう点が挙げられます。助産師は「妊娠・出産・育児（特に母乳育児）」を専門的に支える職業です。その専門性ゆえに深く伝えられる部分が多い一方で、「妊娠や出産、母乳育児を強要する人」という誤解を受けることがあります。

私は、プレコンセプションケアを単なる健康管理の技法としてではなく、権利保障の枠組みとして捉えること、そして性や生殖を個人だけの問題ではなく社会構造の問題として理解することを重視しています。

これらの視点を欠くことなく、人権ベースの包括的性教育とSRHRを基本に据え、「妊娠・出産・育児」を“義務”ではなく“権利”として捉えられるよう、若者たちの励ましとなる実践を積み重ねていきたいと考えています。

③ かなみ助産院　星　擁子（中央ブロック）



私は、地域におけるプレコンセプションケアの普及を目的に、幅広い世代を対象とした講演や講座を実施しています。埼玉県内の地域勉強会では、市内在住・在学の小・中学生の保護者を対象に、「子どもたちの豊かな心を育むために」をテーマとした性教育を行いました。子どもたちが自分の体を大切にし、自分らしい人生を選択できるよう、家庭での性教育の重要性や、プレコンセプションケアの考え方について伝えるとともに、性の多様性、SNSによる性被害、HPVワクチンなど、保護者に知っていただきたい内容についても取り上げました。

また、プレコンセプションケア相談センター埼玉「ぷれたま」の相談案内カード「ぷれたま守」を紹介・配布し、相談窓口の周知にも努めました。講演後には「家庭で性について話すきっかけになった」「もっと早く知りたかった」といった声が寄せられ、異性の子どもとの入浴や自慰行為への対応など、家庭で抱える悩みについて個別相談も受けました。こうした経験から、子どもだけでなく保護者への支援を充実させることの重要性を実感しています。 さらに、若い世代に向けてはSNSやオンライン講座などを活用し、ライフプランや健康について主体的に考える機会を提供しています。今年度からは妊活講座も開始し、妊娠・出産に関する正しい知識やパートナーとのコミュニケーションについても発信しています。

今後も助産師として、ライフステージに応じたプレコンセプションケアの普及に取り組み、一人ひとりが自分らしい人生を選択できるよう支援を続けていきたいと考えています。

④ のんりく助産院　高橋　幾恵（北部ブロック）



私は、幼児から小・中・高校生、保護者や教育者まで幅広い世代に向け、年齢や背景に応じた支援を行っています。大切にしているのは、「知識を得るだけでなく、実践できること」です。理解したつもりで終わらせず、日常の中で活かせるよう、参加者の反応や意見を受け止めながら進める参加型の講座を中心に実施しています。これは、受動的な理解にとどまらず、主体的な行動変容につなげるためです。

若い世代には、遠い将来の話よりも、数年以内に起こり得る具体的な場面で伝える方が、反応が良いと感じています。専門用語を避け、日常の言葉で伝えることを意識しています。また、高校生の娘や子どもたちから流行や関心を学び、感覚のズレを埋める工夫も行っています。講座では実際の事例や「こんなときどうするか」といった問いを投げかけ、時に教員も巻き込みながら場の緊張を和らげ、自分ごととして考えられる環境づくりを大切にしています。

活動を通して、子ども以上に大人の価値観や関わり方に課題があると感じています。特に、これまで当たり前とされてきた感覚や、更新されていない知識が無意識のうちに関わりに影響している場面も少なくありません。「いつか学ぶ」といった声を耳にすることもあり、その度に課題意識を強くします。一方で、「イメージががらりと変わった」「もっと多くの人に聞いてほしい」といった反応や、講座後に親子の関係性が変化したという声も多く寄せられています。月経時は子どもとの入浴を避けていた母親が、一緒に入浴し身体の仕組みを伝えたことで、子どもが相手を思いやる行動につながったという返答もありました。

本活動は一度で完結するものではありません。現場での反応や揺れ動く感情の中で、少しずつ「考えるきっかけ」を残していくことが重要だと考えています。その積み重ねが行動変容を生み、将来の選択につながると捉えています。